

マニラ日本人学校から

広 富 隆 史

(平成21年度派遣:土師小学校)

1, はじめに

マニラ日本人学校に赴任し、3年目となりました。本年度は、5年1組の担任、そして小学部長として元気にがんばっています。学校では、明るく素直な子どもたち、日本各地から派遣されている先生方、とても親切な現地スタッフに囲まれて、毎日貴重な経験をさせていただいています。

2, フィリピンの首都「メトロマニラ」

7000以上もの島で構成されているフィリピンは、人口約8800万人。東洋と西洋の文化が融合されて、他の東南アジアに比べユニークな文化、生活様式を持つ国として知られています。その中で、首都、メトロマニラ（マニラ首都圏）は、ルソン島の中にあります。

メトロマニラには、900万人以上が暮らしており、中心地では高層ビルが林立しています。街中の道路では、「ジブニー」という小型バスや、「トライシクル」というオートバイにサイドカー

を付けた三輪車などが走り、フィリピンならではの光景をつくっています。近年、人口集中が著しく、自動車も増え続けており、しばしば交通渋滞も起こります。

気候は、雨季と乾季がありますが、基本的に1年中高温多湿です。日本のとの時差は、マイナス1時間です。フィリピンの公用語は、「タガログ語」と「英語」です。現地の方は英語が話せるので、日常生活では英語で十分会話することができます。お店では店員さんが、日本語であいさつをしてくれることも多く、現地の方々はとても親切です。

東日本大震災については、フィリピンでもたいへん心を傷めています。本校でも募金活動を行ってきましたが、政府が支援を申し出たり、各地で募金やチャリティーイベントが開催されたりするなど、フィリピンでも盛んに支援活動が行われています。



学校から市街地のビル群を望む

3, マニラ日本人学校について

マニラ日本人学校は、周囲にインターナショナルスクールや現地校などが建つ、文教地区の中にあります。

本校の校訓は、「やさしく」、「かしこく」、「たくましく」です。自ら学び、優しく、賢く、遅しく、国際性豊かな子どもを育成することを目標としています。

24名の教員、9名の事務職員、6名の英語講師、2名の水泳講師の合計41名の教職員が勤務しています。その他、ガードマン、環境整備のスタッフ、スクールバスのスタッフなど多くの現地スタッフとともに、学校を支えています。

児童生徒は、平成23年6月現在、小学部284名（12クラス）、中学部88名（4クラス）、合計372名が在籍しています。日本と同様の学習はもちろん、本校の特徴的な学



マニラ日本人学校

習として、週に2時間の英会話の学習、週に1時間の水泳の学習を1年を通じて取り組んでいます。その他、現地校との交流を定期的に行い、日本語の習得が十分でない児童に日本語指導教室を設けるなどを行っています。

本校の子どもたちは、日本各地から来ています。また、生まれてずっとフィリピンで生活している子どももいます。転入や転出が多いのも、日本人学校の特徴の一つだと思います。児童生徒の入れ替わりが多いせいも、どの転入生にもやさしく接し、すぐに仲良くなれるので、いつも感心します。我が5年1組は、今年度の1学期で3名の転入、3名の転出がありました。

4, 1年間の主な行事

全校で行う行事や、小学部と中学部それぞれで行う行事があります。それぞれの活動を、子どもたちは、生き生きと取り組んでいます。



○1年生を迎える会 (4月)

各学年が、1年生に出し物を披露します。



○現地校との交流会 (7月など)

日本とフィリピンの文化を紹介し合います。



○MJSフェスティバル (10月)

劇、合唱、合奏などを全校が発表します。



○全校遠足 (5月)

学年毎に、臓物園や文化財見学などをします。



○校内水泳大会 (7月)

練習してきた成果を試します。



○MJS大運動会 (1月)

全校が紅白に分かれてたたかいます。

5, おわりに

毎年6月ごろ、各学年ごとに親子でゲームを楽しむ「懇親会」が行われます。その中で、恒例の「先生クイズ」のコーナーがあります。私は、そのクイズの中で、鳥取県に関する問題を出すことにしています。今年度は、鳥取県出身の漫画家を問題にしました。親子で興味をもってクイズを答えてくれたのでうれしかったです。

3年目も、今しかできないこと、ここでしかできないことを積極的に経験し、多くのことを吸収したいと思います。